

各都道府県小学生バレーボール連盟
理事長・審判委員長 各位

日本小学生バレーボール連盟
理事長 山崎 宣夫
審判委員長 山田 道人

小学生バレーボールは、選手と指導者そして保護者の三者が協力しあい、それを多くの人々が支えながら発展してこそ、他に誇れる姿になります。そのために審判の判定は、いつも公平で正しいものでなくてはなりません。審判規則委員会では毎年様々な課題に取り組んでおりますが、この度次の2点について検討いたしました。趣旨をご理解の上、各大会においてチーム対し、ご指導並びに統一をお願いいたします。

1 小学生のユニホームについて

最近、小学生のユニホームは、各チームで工夫を凝らし、色鮮やかなものやカラフルなデザインのものが多く見られるようになりました。しかしながら、その分、番号が見えにくいものが増えてきております。ユニホームに関しては、6人制競技規則で基準が決められております。そこで、小学生のユニホームについては、下記のとおり基準を設けましたので、次回製作時は、下記の事項に準拠した適正なユニホームを作成くださいますようご協力をお願いいたします。

(1) ユニホームに関するルールについて

※6人制競技規則を参照のこと。

(2) 小学生での取り扱い

① 小学生のユニホームについては、上記6人制のルールに準拠し、次の事項を表記してください。

ア 番号

・最近のユニホームでは、審判員が番号をはっきりと識別できないものが見られます。番号の色については、ルール上の問題はなくても、識別が不可能な色は避けるべきと考えています。また縁取りのみの番号は禁止します。

※ 第4条第3項3 (1) ナンバー、ジャージーと対照的 (コントラスト) な色と明るさでなければならない。

イ チーム名

ウ キャプテンマーク

② 留意事項

ア チームロゴ・校章、都道府県名、地域名称などを入れる場合、上記ア～ウの事項がはっきり識別可能なものにする。

イ 個人名を入れることは禁止します。

ウ ソックスは、長さの色を統一すること。

(3) 今後の対応

上記2以外の事項がユニホームに表記される例が今後増加した場合には、再度禁止項目を検討します。

2 小学生の試合におけるスクリーンの反則について

昨今、小学生の試合でスクリーンの反則になってしまっているケースが多く見られます。ほとんどの場合、反則を取られずにそのまま流されていますが、小学生の場合でもスクリーンの反則は成立します。また、チーム側からは意図的に行っているのではないという声も聞かれますが、意図的かどうかということではなく、事実としてスクリーンが形成されたかどうかという点が判定の基準になります。

そこで小学生の試合での、スクリーンの反則についての取り扱いを下記の通り設けますので、今後の試合に適用し正しい運営を行ってください。

(1) スクリーンの反則について

※ 6人制競技規則を参照のこと (第13条 第5項)

(2) 小学生での取り扱い

① 小学生の試合でのスクリーンの反則は、上記6人制競技規則に準拠し、次の通り取り扱ってください。

ア 主審はサービス時に、スクリーンの反則となり得る位置に競技者がいないか確認してください。

イ スクリーンの反則となる可能性がある場合には、当該チームのキャプテンを呼び、指導を行ってください。その際は該当する競技者の番号や位置を明確に伝え、スクリーンにならないよう離れる様に指導してください。

ウ 上記①、②の手順を踏んだ後、反則を適用してください。

② 判定の際の留意事項

ア スクリーンの反則はネット付近の競技者だけでなく、ネット付近の競技者とバック・ゾーンにいる競技者との位置関係によっても発生しますので、その点も見逃さないように確認してください。

イ 反則は形成されたスクリーンの上をサービスのボールが通過した時に成立しますので、事実をきちんと確認して判定してください。

以 上